

被爆地・長崎から 平和への誓い、新たに

8月9日、被爆者や遺族のほか、安倍首相ら政府関係者、世界各国の代表など約5,900人が参列し、被爆74周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を平和公園で行いました。

(長崎平和宣言より。
被爆者の詩の部分)

幾千の人の手足がふきとび
腸わたが流れ出て
人の体にうじ虫がわいた
息ある者は肉親をさがし
とめて
死がいを見つけそして焼
いた
人間を焼く煙が立ちのぼり
罪なき人の血が流れて浦上
川を赤くそめた
ケロイドだけを残してやっ
と戦争が終わった
だけど……
父も母ももういない
兄も妹ももどってはこない
人は忘れやすく弱いものだ
から
あやまちをくり返す
だけど……
このことだけは忘れてはな
らない
このことだけはくり返して
はならない
どんなことがあっても……

田上市長が全世界に向けて、長崎平和宣言を読み上げました。

平和宣言では、被爆者のかたの詩を引用し、被爆の惨状と被爆者の切なる思いを訴えました。また、核兵器を巡る危機感を訴え、「平和のためにできることはたくさんあります」「核兵器はいらない、と声を上げましょう」などと市民社会に向けて強く呼び掛けました。

(長崎平和宣言の骨子)

- ・被爆者の詩を用いた、被爆の惨状と被爆者の訴え
- ・核兵器を巡る世界情勢への危機感の表明
- ・核兵器のない世界の実現に向け、市民社会が世界を動かしてきた実績の紹介、および市民社会の力の重要性の指摘
- ・市民社会へ、自分たちにできることはたくさんあるとのメッセージ
- ・各国首脳などへ被爆地訪問の呼び掛け
- ・核保有国に対し、核不拡散条約(NPT)で課せられた義務(核軍縮)の履行要請
- ・日本政府に対し、核兵器禁止条約への署名、批准の要請、「北東アジア非核兵器地帯」の検討要請、および日本国憲法の平和理念堅持の訴え
- ・日本政府への被爆者援護充実および被爆体験者救済の要請、原爆犠牲者への追悼および核兵器廃絶への決意表明



長崎平和宣言
全文



「平和への誓い」を読み上げた被爆者代表の山脇佳朗さん。自らの被爆体験や核兵器廃絶への思いを述べ、最後は60歳を過ぎて学んだ英語で「この世界から核兵器を廃絶し、長崎を最後の被爆地とするために皆さんの力を貸してください(和訳)」と締めくくりました

“平和を”自分ができることで。 — 次の時代へつなぐ平和関連行事 —

市内では、“見る”“聴く”“作る”“感じる”など、さまざまな形での平和行事が行われました。参加者は自分にできることや、興味があることを通じて、被爆の実相に触れたり、平和を希求したりしました。

式典を支えた 若い力

式典には多くの若者たちが参加し、それぞれの役割を通じて、被爆者の冥福を祈り、恒久平和を願いました。



北海道から沖縄まで、35自治体・約400人の青少年が集まり、長崎の若者たちと平和を考える青少年ピースフォーラム。長崎から全国に平和の輪を広げました



式典の進行を務めた長崎東高校の水野さん(左)と、里さん(右)



「被爆体験を語り継ぐ^{とわ}永遠の会」の朗読に多くのかたが耳を傾けました



9組の「おやこ記者」が被爆者や式典参加国の大使取材し記事をまとめました



城山小学校の児童合唱「子らのみ魂よ」。5・6年生51人の歌声が会場を包みました



原爆で多くの児童を亡くした山里小学校では8月9日に平和祈念集会を実施



原爆資料館では来場者が展示や平和案内人の説明を熱心に見聞きました



青少年ピースボランティアが配る飲料水やおしぼりで参加者は涼をとりました

8月8日の「平和の灯」では、約3,000本の光のキャンドルに灯がともされ、参加者が祈りを捧げました



今年も純心女子高校の合唱「千羽鶴」で式典を締めくくりました